



復興応援団だより

発行日 平成24年3月31日
 発行元 一般社団法人
 復興応援団広報
 022-393-9331

復興応援団とは?

私たち「一般社団法人復興応援団」は、地元の人が中心となった東北地域の復興のために活動する団体です。私たちは、あくまで復興の“応援団”です。復興や、この先のまちづくりの主役となるのは住民の皆さん。そんな皆さんの取組みを少しでも応援することで、東北の復興を支えていきます。私たちに応援できること。

それは、①東北地域の各市町村・集落のファンを増やすこと②地元の人とファンが一体となって復興とその後のまちづくりに取り組むしくみをつくること③地元の人自身(特に若い世代)が復興とまちづくりに立ち上がる大きなうねりをおこすこと。この目標に向け、仙台市を拠点に、南三陸町、多賀城市など宮城県内の各地域で活動しています。主な活動内容は、(1)「ボランティアツアーの実施」と(2)「地域内外のネットワークづくり」です。ボランティアツアーでは、全国からのボランティア参加者が、地域再生のために活動する地元の方の事業をお手伝いします。さらに、その地域の自然・食・人に触れることを通して、「またこの地域に来たい」「これからもこの人のお手伝いをしたい」と思ってくれるような「地域のファン」を生み出します。そんな全国の「地域のファン」と地元で活動する方を結び付け、取組みを支えることで、地域全体に波及効果を生み出し、長期に渡って復興を支えていきます。現在は「農業で被災者雇用応援プロジェクト(南三陸・歌津地区)」「養殖業で民宿街再生応援プロジェクト(南三陸・袖浜地区)」の各プロジェクトでボランティアツアーを実施しています。また、多賀城市での「支え合いネットワーク」づくり事業では、仮設住宅や見なし仮設の入居者の皆さんを中心に、今後の復興公営住宅の暮らしにもつながられるような、住民の皆さんが中心となった自治のコミュニティ「支え合いネットワーク」を育むお手伝いをします。このコミュニティが今後のまちづくりの仕組みとして発展することで、長期的な地域の再生と活性化を支えていきます。



復興応援団だよりのねらい

▲復興応援団代表の佐野哲史(さのりひと)

「復興応援団だより」は、地域の皆さんに私たちの活動を知ってもらうことを目的としています。地域をもっと元気にしていくために被災地で頑張っている人がたくさんいること、私たちはそのお手伝いをして地域のファンを増やそうとしていること、それをこの「団だより」を読んでくださる皆さんに感じていただきたいです。自分たちの地域やほかの地域の誰かの取組みを知ることで、また新しい取組みが生まれていく。そんな「希望と元気の連鎖」がこの「団だより」によって生まれることが理想です。地域全体で復興に向かえば、その勢いは何倍にもなります。私たち復興応援団に、復興を加速させるお手伝いをさせて下さい。

団体概要

団体名：一般社団法人復興応援団
 団体住所：〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4丁目7-25
 ライオンズマンション中央1205
 電話番号：022-393-9331
 代表：佐野 哲史(さのりひと)
 ホームページ：<http://www.fukkou-ouendan.com/>

「復興応援団だより」は、月に1回発行し、手渡しで皆さんにお配りします。今回は創刊号として、復興応援団のめざすものと活動のご紹介、本誌発行のねらい等を掲載しました。今後の「団だより」では、各地域でのその月の活動報告や、各地域で輝いている人の紹介、団員からのメッセージなどを掲載していく予定です。ぜひ目を通して見て下さい。

「支え合いネットワーク」づくり事業

「震災前よりも支え合う力が増すまちづくり」復興応援団の多賀城市での活動の目標です。現在の仮設住宅あるいは見なし仮設、そして近い将来の復興公営住宅という新しい環境の中での生活をいきいきとしたものにするためには、住民の皆さんご自身が中心となった自治の力が必要です。復興応援団は仮設住宅や見なし仮設の入居者、在宅避難者の方々が中心となった自治コミュニティの形成、運営を支えていきます。団地内では、仮設住宅住民の中核となる「自治会」や団地内の人間関係に精通した「お世話人」を中心に、自治を支える住民の皆さんの結びつきを生み出していきます。団地外では、住民の支援に協力的な周辺の施設や商店を「見守り人」としてつなげ、さらに市役所や社会福祉協議会をはじめとした公的機関とも連携を取り、団地を中心とした内外にゆるやかなネットワークをつくっています。復興応援団はこのネットワークの中にいる方々をつなぎ、活性化させる仲介役となることで、住民中心の自治を支えていきたいと考えています。また住民の皆さんが中心となった企画のお手伝いもしていきます。普段はあまり接点のない仮設内の男性による「男の料理教室」。共同作業を通じて住民同士が交流する「呼び鈴の取り付け」。自治会が仮設住宅内の住民のつながりを情報共有できる「支え合いマップづくり」。さらに4月からはお惣菜などの商品の販売を通して住民の皆さんにコミュニケーションの場を提供する移動販売も始めます。私たち復興応援団は、このような活動を通して、この先もずっと、人と人のつながりや、支え合いの仕組みがまちのあちこちに残る、震災前よりいきいきとした多賀城市をつくるお手伝いをしていきます。



▲「男の料理教室」開催

(3月24日、多賀城市にて)



▲トマトの苗の定植作業 (2月12日、歌津にて)

農業で被災者雇用応援プロジェクト

南三陸歌津地区の農家「小野花匠園」さんは、もともと主に菊の生産をしていました。震災後、ご主人である小野政道さんは、津波の被害から免れた畑でトマトの直販事業を始めました。その資金で地元の被災者を雇用し、また、周辺農家の皆さんと今後開拓していく直販先との仲介役となることで、地域農業の復興を目指しています。そこで、歌津地区でのボランティアツアーでは全国から参加者を募集し、トマト栽培のお手伝いをします。このツアーのねらいは主に2つあります。1つは、トマト栽培の実質的な作業の人手を増やすということ。もう1つは、ボランティアにきた参加者の方が、トマト栽培のプロセスに関わることで南三陸

のトマトに愛着を持ち、積極的に購入するようになること。これらによってトマト事業が軌道に乗ると、雇用拡大や歌津地区の農業の活性化につながります。私たち復興応援団は、ツアーを通して小野さんや美味しいトマトのとりこになった“地域のファン”をつくるお手伝いをしていきます。

養殖業で民宿街再生応援プロジェクト

南三陸町袖浜地区の「下道荘」さんは、自ら海産物の養殖を営む民宿でした。震災で大きな被害を受けた袖浜地区の民宿街の中で、最初に営業を再開させました。ご主人の菅原長弥さんには、自分たちが営業を再開し、地域に人を呼び込むことで、民宿街、袖浜という地域全体を盛り上げたいという思いがあります。復興応援団は全国からボランティアを募集し、袖浜地区でワカメや牡蠣などの養殖業をお手伝いするボランティアツアーを実施することで、下道荘さんの挑戦を応援していきます。ボランティアの皆さんは、ワカメなどの養殖業のプロセスに関わることで海産物に愛着を持ちます。袖浜地区や南三陸町の美しい自然や、菅原さんをはじめとした地域の方々の温もり、下道荘さんのもてなしに触れることで、「またこの場所に戻ってきたい」と感じます。私たちはツアーを通して、袖浜地区の海産物や下道荘さんを好きになり応援し続けてくれる“地域のファン”を生み出します。また、下道荘さんにボランティアなど多くの人が訪れ、楽しそうに賑わっている様子は、袖浜地区の他の民宿のみなさんにとって、営業再開への勇気となるのではないのでしょうか。私たちは、民宿街に人が訪れつづける活気あふれる袖浜地区の再生をお手伝いしていきます。

▼漁師の方からワカメの芯抜き作業の指導を受けるツアー参加者 (3月19日、袖浜にて)

